

## マイコプラズマ感染症とマイコプラズマ抗原キット リボテストマイコプラズマ

講師：関戸 紗由里（極東製薬工業株式会社 営業学術部）  
司会：鈴木 朋子（上尾中央医科グループ 東大宮総合病院）  
長谷川 卓也（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

マイコプラズマ肺炎は *Mycoplasma pneumoniae* の感染により引き起こされる呼吸器感染症である。感染経路は飛沫感染や接触感染であり、感染後、粘膜表面の細胞外で増殖を開始し、気管、気管支、細気管支、肺胞などの下気道の粘膜上皮を障害する。1～3 週間の潜伏期間の後、頭痛、倦怠感、発熱、咽頭痛、咳の症状がみられ、咳に関しては初期では乾性の咳が見られるのが特徴である。

患者のほとんどは小児であるが、60 歳以上の患者も増加傾向にある。過去には 4 年周期で流行していたが、現在は年を問わず流行がみられるようになっている。

検査法としてはこれまで培養法、抗体検査、PCR 法や LAMP 法による遺伝子検査が行われてきた。しかしながら、最も汎用される抗体検査は感染から抗体上昇まで一定期間を要すること、治癒後も抗体が消失せず再感染時に判断が難しいといった問題があった。また、遺伝子検査では設備が必要であること、検査に時間を要するといった問題点があり、より簡便で早期検出可能な検査法が求められてきた。

リボテストマイコプラズマ（製造販売元 旭化成ファーマ株式会社、販売元 極東製薬工業株式会社）は、世界で最初に製造販売承認されたイムノクロマト法によるマイコプラ

ズマ抗原の検出キットである。本キットはリボソームタンパク質 L7/L12 の菌種特異的領域を抗原として検出している。L7/L12 はリボソームを構成している数多くのタンパク質の一つであり、すべてのリボソームに存在している。本キットは肺炎マイコプラズマの L7/L12 に固有な領域を識別する特異的なモノクローナル抗体を用いている。抗体検査に比べて、リボテストマイコプラズマは抗原検査のため、肺炎マイコプラズマをより早期に検出できると考えられる。検体には咽頭ぬぐい液を使用し、採血が不要であるため患者側の負担軽減ともなる。また、イムノクロマト法を原理としているため、特別な設備は必要なく、判定時間は 15 分と短時間での判定が可能である。

世界初の技術で迅速かつ簡便にマイコプラズマ抗原を検出し、マイコプラズマ肺炎の早期診断を可能としたリボテストマイコプラズマをご紹介させていただく。

### 【連絡先】

極東製薬工業株式会社 営業学術部

TEL : 03-5645-5664 FAX : 03-5645-5703